

教 育 委 員 会 議 事 録

(令和2年度 教育委員会 第10回定例会)

開会 令和3年1月13日(水)

閉会 令和3年1月13日(水)

午前9時00分

午前10時17分

場所 西宮市役所東館 701 会議室

出席委員	教育長 重松 司郎 委員 側垣 一也 委員 長岡 雅美 委員 藤原 唯人 委員 山本 幸夫	欠席委員		
会議に出席した職員	職	氏 名	職	氏 名
	教育次長	坂田 和隆	青少年育成課長	牧山 典康
	教育次長	佐々木 理	学校教育課長	木戸 みどり
	教育総括室長	薩美 征夫	学校保健安全課長	中前 洋一
	参与(人事担当)	八橋 徹	特別支援教育課長	原田 綾女
	社会教育部長	上田 幹	教育研修課長	木田 重果
	参与(GIGAスクール)	澤谷 航	都市計画課長	山本 和男
	学事・学校改革部長	津田 哲司	教育企画課係長	瀧井 佑介
	学校教育部長	漁 修生		
	教育総務課長	竹村 一貴		
	教育企画課長	吉田 巖一郎		
	学校施設計画課	柏木 弘至		
署 名	教育長		委員	

付 議 案 件

<教育長報告>

<一般報告>

- 一般報告① 令和3年成人式「二十歳を祝うつどい」の実施結果について（当日資料）
〔青少年育成課〕
- 一般報告② 「学校」の都市計画での位置付けに係る市の方針（案）について
〔都市計画課・学校施設計画課〕
- 一般報告③ GIGA スクール・スタートパッケージ（素案）について
〔学校教育課・教育研修課〕
- 一般報告④ 令和3年度全市的行事について
〔学校教育課〕
- 一般報告⑤ 不登校児童生徒支援について **非公開** 〔学校保健安全課〕
- 一般報告⑥ 児童・生徒の状況について **非公開** 〔学校保健安全課〕

以 上

傍 聴

4名

重松教育長	<p>ただいまより、令和2年度 第10回 教育委員会定例会を開催します。議事録署名委員には藤原委員を指名します。よろしくお願いします。</p> <p>はじめに、9月定例会について、議事録の承認を行います。</p> <p>議事録は既にお手元に送付し、確認していただきましたが、簡単な字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。それでは、承認します。</p> <p>なお、簡単な字句の訂正があれば、事務局にお伝えください。</p> <p>ここで、各委員に確認します。傍聴希望者が本日は4名おられます。</p> <p>会議は公開が原則ですが、一般報告③は議会に報告する案件、一般報告④⑤は意思形成過程の案件であり、現時点では公表されておりません。</p> <p>また、一般報告⑥は個人情報を含む案件であり、公開により率直な意見交換ができなくなる恐れがあるため、それぞれ非公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。よって非公開とします。</p> <p>審議の順番についてですが、公開案件から先に行い、続いて非公開案件に移りたいと思います。</p> <p>では、はじめに私の方から報告をさせていただきます。</p> <p>2021年最初の教育委員会ですが、休み中に私もテレビを見たりしていました。その中で、2020年12月29日に「7年ぶりに会いに行こう。35歳になった君に」というNHKの番組がありました。これは7年おきに子供たちがどう成長していったのかということを取材した番組で、今35歳になった子供たちの様子が放送されました。</p> <p>その中で、子供たちがどう変わっていくかということなのですが、こういう縦断的な研究というのは、なかなかありません。横断的というか、同じ世代を全部調べるという研究は結構あるのですが。なぜかという、縦断的な研究をすることは、時間はかかりますし、なかなか対象者が見つからないということもあります。また、研究者の方も年を取っていきますので、例えば50年研究を続け</p>

ると、30歳から始めた研究者が80歳になってしまいます。その中で今回10人の子供を7年間ずつ追いかけるという番組内容でした。その中には、歌舞伎役者の尾上松也さんも入っていて、10人の子供が今35歳になって、どうなっているかというのを聞いているわけですが、その中で、将来の夢というのを聞いています。

7歳のときの子供たちが答えているのは、だいたい親の後を継ぐ、又は親と同じような仕事をしたいという答えです。

ところが、14歳から21歳ぐらいになってきますと、自分としての考え方がやはり出てくるみたいで、そのときはそう答えたかもしれないが、いやいや自分はこんなことをやりたいのだとか、まだまだやりたいことがよく分からないだとか、逆に親の仕事に反感して、ということがあって、また、ほとんどの人が生まれた故郷から動いているなどの状況の変化があります。

28歳から35歳になると、もう就職して、仕事についたりしているので、ある程度、自分の考えをしっかりとっていて、自分のやりたい方向へ進んでいるという結果が出てきています。子供たちが将来の夢をどう持っていて、それがどのように変わっていったのか、この縦断的な研究で分かりました。

他にも民間企業がいろいろな調査をしているのですが、小学校1年生と小学校6年生、高校1年から3年生、それぞれ将来どういう仕事につきたいかという「夢」についての調査結果が公表されていますので紹介します。一つは、ある民間企業が小学生を対象に行った調査。もう一つは別の民間企業が高校生を対象に行った調査です。

小学校1年生では、男の子はスポーツ選手になりたいというのが1位で

18.8%、第2位が警察官、第3位が運転手、第4位が消防・レスキュー隊、5番目がTV・アニメのキャラクターになりたいという答えでした。大体の子供たちにそれぞれの夢があり、何か現実離れしたような職業もありますが、非常にありだなと思っています。特にスポーツ選手では、普通ならサッカーと野球ですが、この年、ラグビーがあったので、ラグビーが圧倒的に出てきていまして、そういう意味では、子供たちの興味が分かるのかなと思っています。

ところが、小学校6年生になりますと、その希望がどうなるのかというと、男の子と女の子は若干違うのですが、男の子の方の1位はやはりスポーツ選手が1位になっています。それから2位がお医者さん、3位が職人・大工、6位に警察官が入ってきています。

女の子の方は、1位が保育士、それから去年の1位だった教員は6位に落ちてい

て、2位が看護師、4位が医者、5位が薬剤師という順番になっています。これを見て思ったのは、やはり小学校6年生ぐらいになると、かなり周りの状況を読み込んでいるということ。今回この調査の解説にも出ていましたが、やはりコロナがあった影響で、お医者さん、それから看護師、そういうのが増えているということ。もう一つ決定的なのは、去年はベスト10にも入っていなかった薬剤師が今回ポンと上がってきているのだそうです。

そういう意味でいくと、かなり状況を読んでいると言えます。子供たちは子供たちなりに、小学校6年生ぐらいになると将来なども色々と考えていることが分かりました。

それから、高校生ですが、高校生になると現実的ですし、もう自分の将来をどうするかというのを高校1年生の段階で考えているようです。ところが、高校生でもかなり状況が変わってしまっていて、どういうことかと言うと、男子の場合はコンピュータ関連の仕事などが非常に多いと。それから女子の場合は、保育士だとか幼稚園の先生、又はいろんな料理を作る料理人、中には芸能人になりたいというのがありますが、そういう順番になっている。

特に顕著に出てきているのは、全く決まっていない、何になりたいのか分からないというのが、男子が1年生のときは29.3%、2年生になると23.4%、3年生になると16.9%まで減ります。女子の方は、1年生は17.8%、2年生で14.5%、3年生で12.0%となって、逆に言えば男子に比べて女子の方が将来のことをはっきりと自分で決めているのかなと思っています。ただ、10%以上の方が決まってないというか、それが多分次の大学への進学の際の進路に非常に影響してくるのかなと思っています。

大きな特徴は、男子の場合は、1年生では全然出てこなかった国家公務員、地方公務員が2年生では4位に上がってきます。それが3年生になると圧倒的なトップに上がっています。女子の方は、1年生が1位でトップですが、2年生になると2位に落ちて、3年生になると3位までだんだん下がっています。これがなぜそんな結果になるのかなということではありますが、ある新聞の中に書いてあったのは、地方公務員も国家公務員も今コロナの状況で仕事がかなりしんどいのではないかと、そういうことがあって、公務員になったら後が大変だという思いがあって、だんだん減ってきているのかなということが考えられます。

小学校6年生と比べたらお医者さんになりたいとか、薬剤師さんというのは出てこないで、そういう意味では現実的な仕事の状況を把握しているのがよく分かります。だから、同じ状況でも小学校6年生と高校生の回答が違うのかなとい

うことを思っています。

合わせて、親の方はどう思っているかというと、実際に親は働いていますので、その意味で言えば、子供たちの将来については、どんな世の中になっても安定した職業についてほしいというのが圧倒的でして、手に職がある仕事がいいという考えがあるみたいです。ですから男の子の親の希望は1位が公務員、2位がエンジニア、3位が医者、4位がスポーツ選手、5位が研究者。女子の親の希望は1位が看護師、2位が公務員、3位が薬剤師、4位が医療関係、5位に医者となっています。ただ少し違うのは、医者だとか、薬剤師が例年よりも若干上がってきています。ということは、やはり親もそういうことを思っている、小学校6年生と同じようなことが少しあるのかなと。逆に言えば、親の影響が小学校6年生に出ているのかもしれませんが、相関は取れないのでよく分かりません。

さらに別の民間企業の「子供の頃の夢と職業比較調査」によると、子供の頃になりたかった職業に実際についているのは、たったの9%しかありません。後の80%以上は、実際になりたかったのだからあきらめた。残りが一応希望の仕事、夢の仕事にはついたので、途中でやめてしまったという状況になっています。

ということは、やはり進路をこれからどうするかと。キャリア教育も含めてですが、子供たちの様子がいろいろ変わってくる、世の中の状況も変わってきますので、それに併せてどうやって行くのかということが非常に大事かなということを感じました。

それともう一つ、アメリカに、ロバート・フロストという詩人がいたのですが、小学校・中学校の義務教育の中で、この方の詩を必ず学習するのだそうです。どんな詩か、少し読んでみます。

「選ばれざる道」という詩です。

黄色い森の中で、道が二つに分かれていた。
残念ながら、両方の道を進むことはできない。
ひとりで旅する私はしばらく立ちどまり、
片方の道をできるだけ奥まで見ると、
その道は、先で折れて草むらの中に消えていた。
次に、もう一方の道に目をやった。
こちらも劣らず美しいし、むしろ良さそうに見えたのは、
草が生い茂っていて踏み荒らされていなかったからだ。
もっとも、それを言うなら、その道を通る事によって、

側垣教育委員	<p>実際にはどちらもほとんど同じように踏み均されてしまうのだが。</p> <p>ある日、どちらの道も同じように、 まだ踏まれずに黒ずんでいない落ち葉に埋もれていた。</p> <p>ああ、私は最初の道を、別の日のために取っておくことにした！ しかし、道が先へ先へと続いていることは分かっていたから、 この場所に戻ってくるかどうかは、疑わしかった。</p> <p>この先、私はため息まじりに語り続けるつもりだ。 今から何年、何十年先になっても言い続けるつもりだ。</p> <p>ずっと昔、森の中で道が二手に分かれており、私は——。</p> <p>私は、踏みならされていない道を選んだ。 そしてそれが、決定的な違いを生んだ。</p> <p>という詩です。</p> <p>これを、アメリカでは学校で習い、そこをどう捉えるか。自分の将来を考えると いう一つの契機にしているのだそうです。</p> <p>ですから、私たちのキャリア教育もただ単に職業体験をするだけではなくて、 自分の将来についてどう考えるのだという、そういうときにこういう詩など、そう いうものを参考にしながら考えていくことも一つ大事なのではないかなということ を思いました。</p> <p>自分たちの将来をどう子供たちが考えているのか。また高校生がどう思っている のかということ、ましてや大学生になるともう就職ということが出てきますので、 そのときどう考えるかという一つのきっかけかなということをおもいましたので、 この話をさせていただきました。</p> <p>私からは以上です。</p> <p>では、今のことにつきまして何かありましたら。</p> <p>将来何になりたいというのを聞いていて、保育士が割と上位にあっただけで少し安心 しました。今、余り人気がなく人材募集に困っています。今後、そういう魅力 をどう伝えていくのかとか、どの仕事も同じだと思うのですけれども、や はり大変さというよりも、魅力、それをどうキャリア教育の中で、いろんな職業 選択で伝えていくのかということが必要なのかなと思っています。</p> <p>何年か前に幼稚園の卒園式に行ったときに、希望は、看護師さんになりたいとか、 突然ユーチューバーになるとかいうのが出てきたのが、何か現代的で、幼稚園の</p>
--------	---

	<p>子供もそんなことを考えているのかなと。そういうテレビなどの影響が大きいなということを感じた次第です。感想です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 では、藤原委員。</p>
藤原教育委員	<p>ご報告ありがとうございます。教育長の報告の中で、高校生のおきに具体的な希望が決まっていなくて一定割合いるとか、子供のおきに希望した職業に結果的につけた人が少ししかいないということがあったりしました。私自身も、そんなものかなという気がします。といいますのは、10代の子供たちが知り得る世界というのは、この世界の中で極めて一部ですし、こういう言い方をしたら先生方に失礼かもしれませんが、先生方が伝えられる世界というのも、あくまで社会の一部なのかなと考えています。なので、自分自身が社会に出て、もっと世の中には多様な職業があるということを知って、年をとってから転職する方も今たくさんいらっしゃいますので、むしろ10代のおきに何かを固める必要はないのかなと思います。</p> <p>それよりは、大人になってからも前向きに新しいことに触れて、積極的に学ぶという方法論を、そういう姿勢を10代の学生のうちにしっかりつけておく方が、大人になって、また新たに登場する職業にも対応できていくのかなと考えました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 山本委員。</p>
山本教育委員	<p>感想です。三つあります。</p> <p>一つは、職業の選択が年齢によって変わってくるという話があったのですが、だんだんと現実的になってきている気がします。もう一つは、社会とか人に貢献できるという、そういう部分の仕事は必ず入っていて、そのあたりが一つの選択肢として、とてもいいなと感じました。</p> <p>それから、キャリア教育の話が出ていたのですが、学生が進路を選ぶときに、この仕事に就いたら、それですと働いていくという感覚が、結構まだあります。特に教師というのは公務員ですから、変わったらもったいないという感覚があります。そうすると学生は、続けられるかどうか、やはり不安もあって、なかなか</p>

	<p>決められない。まず自分が現在判断できる精一杯のことをやって、それで合わないと感じたら変わっても構わないという、そういう柔軟さというのがこれから大切なのだらうと思います。</p> <p>最後に、夢ということですが、よく夢はかなうから頑張りましょうという言い方がされます。それは話としてはそうなのですが、さっきも話の中でも9%ぐらいしか実際には達成していないという話がありました。ですから、夢を持つことは大切なのですが、夢は必ずしもかなうものではない、ということも一方で教育の中で丁寧に話をする必要があるということを感じました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>長岡委員。</p>
長岡教育委員	<p>大学だと入試の広報をするときに、出口も一緒に広報するのが、今ではセットになっています。学内でどんな資格が取れるのか、それから資格を取った後に、どんな職業に活かしていけるのかということを示さないと、なかなか受験生が増えないという状況があるのです。しかし、入ったところで本当にその資格をみんなが取って、その資格を活かした職業に就くかということ、それこそ本当にわずかな割合で、皆さんそれぞれ多様な職業に就いていきます。なかなか小学生や、中学生のうちから一つの夢を持って貫いていける人というのは、少ないのかなと思いますし、それが変わっていてもほかの委員がおっしゃったように、そういうことがあっても当然だし、いいのではないかなと思いました。</p> <p>それで、何となく日本って一つのことをずっとやり続けることが、すごくいいとされていますけれども、もちろんそれも大事なことだと思うのですが、もっと広い視野で見ていくということも一方で重要な気がします。先日、福岡大学のサッカー一部のテレビ番組を見たのですが、とても強豪校のようですが、次に4年生になる3年生の冬に、クラブをやめてもいいという、そういうルールがあるそうです。なぜかという、100人以上の部員がいるので、選手になって活躍できない。そうするとラストの一年間、ほかのことに自分は力を注げるのではないか。そういう道をみんなが認めてあげていいのではないかというのがクラブの中にあるようで、あと一年間は、ほかの勉強でしっかり頑張ってみるという学生もいましたし、それから留学をするという学生もいました。本人もそうですし、教える教員の側というか、大人もそういった視野の広さを持つことも重要なのかなと感じました。</p>

<p>重松教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかにはございませんか。よろしいですか。</p> <p>色々な意見を、ありがとうございます。これからキャリア教育をどう進めて行くかという際に参考になると思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>では、これより審議に入ります。</p> <p>最初に、一般報告①「令和3年成人式「二十歳を祝うつどい」の実施結果について」を議題とします。</p> <p>青少年育成課長、お願ひします。</p>
<p>青少年育成課長</p>	<p>1月11日に開催しました令和3年成人式「二十歳を祝うつどい」の実施結果について、報告をさせていただきます。</p> <p>教育委員の皆様、当日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>今回、成人式開催の直前になりまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で東京都などに緊急事態宣言が発出されるなど状況が日々変化しました。事態が動くたびに、開催できるかどうかについて検討を行いましたが、最終的には、市長の意向も伺い、総合的な判断のもと、予定通り開催をしたものでございます。</p> <p>また、市長が当日の式辞の中でもお話しされたように、今回、一度新成人へお送りした案内状の内容を変更する必要が生じ、対象者の皆様には、再度案内を送付するということがございました。</p> <p>具体的には、新成人の座席の設定を変更したものでございまして、当初の案内では、市立中学校と市内の私立中学校、及び自由席という設定をしておりましたが、これでは、市外の中学校に通われていた方、また、特別支援学校に通われていた方への配慮が十分ではないと判断しまして、20の中学校区と自由席、それから入り口に近い席に配慮が必要な方への優先席を設けることに変更をいたしました。</p> <p>案内を再送付することとなり、費用がかかったこと、また、直前の変更で新成人の皆様にご迷惑をおかけしたことについて、深く反省し、今後同様の事態が起こらないように注意いたします。</p> <p>それでは、本日お配りした資料に沿って、実施結果を報告させていただきます。</p> <p>まず、1の開催日程ですが、当日は11時30分ころから新成人が会場付近に集まり始め、正面入り口となる7号門、8号門付近が混雑し始めたことから、予定</p>

を10分早めて、11時50分から入場を開始しました。

昨年に比べますと、入場の進み具合は良く、定刻の13時に式典を開始することができました。式典は、ほぼ予定の時刻に式典は終了し、その後の時間差での退場へ移行しております。

新成人の様子ですが、これも昨年同様、式典時には、ほとんどの皆さんが入場をされました。前の会場ではこういった状況は無かったこととございます。

式典中の様子につきましては、開始後もしばらく新成人の移動が続いていたり、途中で大声を出す人がいたりしたということもございまして、終始ざわついた雰囲気であったと思います。ただ屋外、野球場という会場の特性を考えますと、致し方ない部分ではないかと考えております。

退場は、時間差を設けて行いましたが、退場後、球場周辺に歓談の輪ができ、混雑状態になりました。場外担当職員及び警備員が積極的に移動を呼びかけたことで、例年と異なり、少しずつ人が動いている状況はありましたが、球場周辺の混雑状況解消までには約1時間かかりました。

14時50分頃になり、ようやく球場の周囲からほぼ新成人の姿がなくなり、その後、43号線と阪神甲子園駅間の「広場」には、一定人数の新成人が残っていましたが、密集した状況ではなかったと思います。

資料に戻りまして、2の参加人数・参加率でございますが、参加人数は3,793人、参加率は、70.5%でした。参加者数、参加率とも昨年を上回る数字となっております。

3の北部地域臨時バス利用者の状況ですが、昨年はそれぞれ30名程度の利用がございましたので、今年は大幅に減少しております。

次の、4参加者アンケートですが、今回はネットで募集し、70件の回答がございました。

アンケート結果につきまして、資料の2枚目をご覧ください。

設問2の参加動機は、例年と変わらず、同級生・友人と会えるということが一番の理由となっております。

設問の3、甲子園球場での開催についてですが、大変満足とやや満足を合わせると、81%となり、昨年同様、多くの方に肯定的に受けとめていただいたものと考えております。

アンケートの2ページ目にまいりまして、設問の五つ目、成人式全体の感想ですが、今回は肯定的な意見が減り、その分、どちらでもないと回答された方が、これまでと比較すると多い結果となりました。

	<p>ジェット風船などの企画がなかったことや、コロナ禍において様々な制約がある中での開催というところが影響したのではないかと考えております。</p> <p>最後に自由記載の欄ですが、開催したことに対する感謝の言葉もいただいておりますし、それに加えて不満に思われた点も幾つか挙げていただいておりますので、これは次回に生かしていきたいと考えております。</p> <p>資料の1枚目に戻りまして、その他の報告事項に移らせていただきます。</p> <p>会場内、場外を含めまして、けんかなどの暴力行為や大きなトラブルは発生しておりませんでした。</p> <p>また、体調不良で救護室を利用した方もいらっしゃいませんでした。</p> <p>なお、着付け直しを利用された方は9名でございました。</p> <p>以上、簡単ですが担当課からの報告とさせていただきます。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
重松教育長	<p>説明は終わりました。</p> <p>本件に、ご意見、ご質問はありませんか。</p>
藤原教育委員	<p>この開催に当たって、市民の方から色々なご意見が市役所の方に寄せられたと思うのですが、差し支えない範囲で、その内容とどういった割合で、どういった年代の方がどんなことをおっしゃっていたのか、おわかりになる範囲で教えていただけたら、ありがたいです。</p>
青少年育成課長	<p>主に市民の声というメールを使ったご意見が多かったのですが、保護者年代の方かなと思われる方が、やはりこの、コロナウイルス感染症の拡大状況の中で、実施すべきなのかと、しない方がいいのではないかという意見を、約30件いただいたかなと思います。</p> <p>また直前になりまして、開催が危ぶまれるような状況になったときには、逆に開催してほしいというお声も10件程度はいただいていたというところがございます。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ほかにはございませんか。</p>
藤原教育委員	<p>開催に踏み切ってくくださったこと、本当によかったと思います。緊急事態宣言が</p>

	<p>関東で出されて、関西でも出される見込みだという状況下ではあったのですけれども、何より心配すべきなのは、緊急事態宣言そのものは、必要であるとして、そこからその萎縮効果が必要以上に広がるということが、やはり危惧されるところであります。そうした中で、成人式の開催の是非という議論もにわかに国民、市民の間に沸き上がったものだと思っています。そうした中で、萎縮効果、もしもこの成人式をやらないという判断を西宮市がしていたら、過度な萎縮が広がってしまっていたのではと思います。特に、若い人たちの門出の場という非常に重要なイベントですので、これを開催することによって、西宮市は若い人たちを応援しているという姿勢を明確に示せたものだと思います。そして、市長はじめ皆さん方で、開催というご英断をなされたことは、素晴らしいことであると考えております。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 ほかにはございませんか。 よろしいですか。 では、なければ一般報告①を終了します。 次に、一般報告②「学校」の都市計画での位置付けに係る市の方針（案）について」を議題とします。 都市計画課長、お願いします。</p>
都市計画課長	<p>それでは、「学校」の都市計画での位置付けに係る市の考え方の資料をご覧になってください。 この資料を使って、順次説明させていただきます。 なお、今から説明させていただきます内容につきましては、一部、文言等の修正を行った箇所がございますが、昨年11月の教育委員会会議、懇談会で説明させていただいた内容となります。 それでは、まず、「1. 方針（案）」についてです。 今回、西宮市立の学校のうち、義務教育の学校を都市計画で位置付けたいと考えております。 ただ、現在、西宮市では、「甲子園浜小学校」「浜甲子園中学校」を、既に都市計画で位置付けをしております。これには、過去に経緯がございます。 今、申しました「甲子園浜小学校」「浜甲子園中学校」を含む浜甲団地の地域には、以前、日本の帝国海軍の鳴尾飛行場がございました。</p>

それが、戦後に米軍基地として接収されたのですが、接収の解除後に、市を含む4者に払い下げが行われ、大規模な住宅開発が行われたため、急激な人口増加への必要な施設として、昭和34年に、あらかじめ都市計画学校として位置付けられたものになります。

今回の方針（案）では、これらの学校を含めまして、本市が保有する義務教育施設の全てを都市計画学校に位置付けるというものになります。

次に「2. 目的」についてです。

資料を読み上げさせていただきます。

小中学校等は、心身の発達に応じて体系的な教育が行われる施設として大きな役割を持っている。

さらに、避難所や津波避難ビルとしての災害時の防災機能に加え、地域コミュニティの形成など、多様かつ重要な役割を担っており、将来にわたって維持する必要性が高い都市の根幹的な公共施設である。

これらを広く市民に周知するとともに、小中学校等の良好な環境を保全し、学校施設を適切に維持・管理していくため、小中学校等を都市計画学校に位置付けたいと考えています。

特に文末、最後の方に書いております「学校を都市計画で位置付け、学校の更新・改修を都市計画事業で行うことにより、今まで以上に計画的に維持・管理していくこと」を大きな目的としております。

次に「3. 学校の役割」についてです。

義務教育施設は一定の区域内に必要な教育文化施設であり、都市計画法において、住居系の用途地域では、義務教育施設を定めるものとされております。

また、「防災面」においては、各学校は指定避難所であり、地域の防災拠点となっております。

さらに、JR神戸線以南の学校は、津波避難ビルに指定されており、津波警報などの発令時に地域住民などが、緊急避難できる施設に位置付けられております。

ほかにも、地域住民等のスポーツ振興や健康増進を推進するための施設に加えて、地域コミュニティの形成にとって重要な地域活動の拠点となっております。

このように学校は、様々な重要な役割を担っております。

そのため、これらを広く市民に周知するとともに、適切に施設を維持管理していく必要があると考えております。

裏面をご覧ください。

次に、「4. 学校の配置・規模等」についてです。

	<p>都市計画では、「名称」「位置」「面積」を定めることとなります。</p> <p>その「位置」「面積」についてですが、記載にもありますように、学校の生徒数は将来的に減少傾向ではありますが、教室の有効活用を検討するなど、現在の学校の位置・面積などを維持していく考えでございます。そのため全学校を「学校施設長寿命化計画」に基づき、耐用年数、原則80年とする施設の改修・更新等を順次実施しております。</p> <p>しかし、その事業には多額の費用を要します。そのため、安定した財源である都市計画税を有効に活用し、都市計画事業として、施設の更新等を行うことにより、計画的かつ継続的な施設の維持・保全に務めたいと考えております。</p> <p>それでは、最後に、「5. 今後の進め方」についてです。</p> <p>昨年12月25日の都市計画審議会において、この資料を用いて説明をいたしました。</p> <p>各委員からは、反対意見等もなく、審議会での報告を終えることができました。</p> <p>今後の流れですが、まず、「市の方針(案)」について、1月25日号の市政ニュースで広報した上で、閲覧及び、広く市民から意見をお聴きしたいと思っております。</p> <p>そして、「市民」「学識経験者」「兵庫県」の意見を踏まえながら、都市計画案を作成していき、できれば、今年の秋頃までには、都市計画決定の手続を終えたいと考えております。</p> <p>私からの説明は以上となります。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>説明は終わりました。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p>
側垣教育委員	<p>この都市計画決定、都市計画の中に学校も含めるというのは、これは西宮市独自の考え方か、あるいは他都市でもこういうことがあるのか、教えてください。</p>
都市計画課長	<p>全国的に他の市でも、他の自治体でも学校を都市計画で位置付けているところがございます。ただ、位置付けの仕方としまして、まず今まであったのが、新たに学校を建てるなどするとき、位置付けて建てるといったところが多かったのですけれど、今回のように既存の学校を位置付けるという、この取り組みは、全国的には余りない事案ということです。</p>

重松教育長	以上でございます。
重松教育長	ほかには。
山本教育委員	質問ですが、兵庫県下の市では、具体的にほかにどこかあるのですか。
都市計画課長	兵庫県下で、都市計画で位置付けられている学校は、3校ございまして、実は3校とも西宮市になっております。と言いますのが、先ほど申しました甲子園浜小学校、それと浜甲子園中学校、それと西宮東高校の3校になっております。その経緯につきましては、先ほど申しました米軍基地があって、という経緯になります。
重松教育長	以上でございます。
重松教育長	ありがとうございます。
重松教育長	ほかにはございませんか。
重松教育長	よろしいですか。
重松教育長	なければ一般報告②を終了します。ありがとうございました。
重松教育長	では、これより非公開案件に移ります。恐れ入りますが傍聴の方は、ここで退出をお願いします。
重松教育長	(傍聴者退出)
重松教育長	では、再開いたします。
重松教育長	一般報告③「GIGAスクール・スタートパッケージ(素案)について」を議題とします。
重松教育長	学校教育課長、お願いします。
学校教育課長	「GIGAスクール・スタートパッケージ(素案)について」進捗をご報告させていただきます。
学校教育課長	お手元の冊子の表紙をめくっていただきまして、目次のページをご覧ください。
学校教育課長	こちらの方には、12月に骨子をお示しさせていただきましたものが並んでおります。後に、関係課の執筆を終え、この冊子にまとめさせていただいております。
学校教育課長	目次にあります大きな項目1から4番及び5の両括弧5につきましては、速報版

と同じ内容となっておりますので、今回の説明については割愛させていただきます。新たに書かれたページを少し紹介します。

25ページをお開けください。

今後の学校教育のキーとなります個別最適化学習と社会につながる協働学習の推進という部分が冒頭にきております。

こちらでは、デジタルドリルを活用しました個別最適化された学習について、まず初めに触れております。

続いて、「こころん・サーモ」の実施を挙げております。

それから28ページからは先ほど挙げました社会につながる協働学習と関連してまいります出前授業や遠隔地との交流について、特に今回、特色としましては教育委員会以外の局からの提案も含められております。

さらに、38ページからは、タイトルにありますように「特別な配慮を要する児童生徒への対応」としまして、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、海外ルーツの児童生徒を対象としまして、具体的な推進の方向性や検討内容を示しております。

それから41ページからが、学校外でのICT端末利用として、院内学級なども取り上げまして、今後関係者間で連携し、ICT活用に向け具体的に検討を進めていくとしています。

こちらにつきましては、学校の方も大変関心が高くなっている記載部分でありますので、学校の方が盛りだくさんやっていくことばかりが挙げられていくということよりも、どちらかと言えば検討内容を共有していった、令和3年度、検討して行きながら学校での様子も見ていきながらということでの、そういった連携の強化という部分も含めて記載させていただいております。

それから45ページからが、ICTリテラシー、教育の啓発活動をどのように行っていくのかについて触れております。

それから続いて48ページからは、教員に関する施策として、研修、それからICT指導員の配置、教育データの分析や事務の効率化について、具体的に記載しております。

それと61ページからは、大学とも連携して専門的かつ最新の知見を得て、研究、研修をさらに充実させることについて触れております。

素案の概要として、説明は以上になっていきます。

こちらの素案につきましては、これから意見募集を行うことも含めまして、1月19日に教育こども常任委員会において、所管事務報告をさせていただきました。

	<p>後、1月20日より、実は既にGIGAスクールのホームページ上にGIGAスクールの特設ページを設けております。そちらの方に12月にご紹介しました速報版の掲載も既に終わっているのですが、さらに、この素案の方を掲載しまして、広く市民の方にも、西宮市が進める教育の情報化の具体的な内容を知っていただきたいとしまして、そのページからもご意見がいただけるようにしております。意見募集は2月18日までとしまして、その後、再度素案の内容を検討しまして、最終案を3月にお示しさせていただく予定としております。</p> <p>説明は以上です。</p>
重松教育長	<p>説明は終わりました。28ページの中に環境教育を入れてありますね。</p>
学校教育課長	<p>はい、これから加筆いたします。</p>
重松教育長	<p>28ページのところに、平和教育、キャリア教育、防災教育とありますが、ここへ環境教育を一つ入れます。SDGsが全然認知されていないということがあり、それと合わせて西宮市は環境学習都市なので、環境教育も大事にしていきたいということです。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p>
藤原教育委員	<p>1点だけ。先ほどご説明いただいたところとは別なのですが、現実に関今、タブレットの配付状況は、どんな感じでしょうか。</p>
教育研修課長	<p>中学校の方から順次入れていくところになっておりまして、今中学校の方が1月末ぐらいをめどに全校配備が終了する予定で、その後は小学校でということで、2月中には全校配備するという予定になっております。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>ほかにはございませんか。</p>
山本教育委員	<p>このスタートパッケージは丁寧によく書けていると、この前も話をさせていただいたのですが、学校現場や職員への浸透具合ですね。こういうものが始まるぞという浸透具合の感触はいかがですか。それから、それに向けて特にこんなことを</p>

重松教育長	しているという話を聞かせてください。
学校教育課長	学校教育課長、お願いします。
学校教育課長	学校現場に関しましては、今、教育研修課の方で技術の向上を目指してということで、研修の方を進めております。合わせまして、こちらのGIGAスクール・スタートパッケージにつきましては、校長会を中心としまして、このように進めてまいりますということをご案内させていただいております。 関係者への周知等が終了しましたのち、学校にも正式にこちらの素案等につきましては、送付をさせていただく予定にしております。
重松教育長	よろしいですか。 ほかにはございませんか。
藤原教育委員	先ほど1月末に中学校全校配付、2月中に小学校全校配付とご説明いただきましたけれども、これで全学年配備という理解でいいのでしょうか。
教育研修課長	全学年、全員に配備ということでございます。
藤原教育委員	ありがとうございます。
重松教育長	よろしいですか。 配付した後、スタートするための準備があります。
藤原教育委員	いよいよ始まりますね。
重松教育長	よろしいですか。
側垣教育委員	新しい事柄を進めるときに、ぜひお願いしたいのは、現場の先生方が割合と若いのですからこういうのに慣れてらっしゃると思うのですが、失礼な言い方ですが、管理職の先生方がいかにこれを具体的に理解して進めるかというところが、やはり一番大きいのではないかなと思うのです。ですからそこで違いが出ないように、学校によって進め方に違いが出ないように、十分に管理職の先生方に周知と、それ

重松教育長	<p>からやはり意欲を持っていただけるようにしていただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>ほかにはございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、なければ一般報告③を終了します。</p> <p>次に一般報告④「令和3年度全市的行事について」を議題とします。</p> <p>学校教育課長、お願いします。</p>
学校教育課長	<p>「令和3年度全市的行事について」進捗を説明させていただきます。</p> <p>令和2年度資料にありますように、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、感染症対策を講じても実施が困難と考えられるものは、主催者及び関係者による協議を行い中止とさせていただいております。また、2カ月に及ぶ臨時休業のため、大幅な教育課程の見直しが行われたことや、全市的な取り組みとして授業日数確保するため、夏季休業期間に授業日を設定したことから、夏季休業期間に開催を予定していた行事を中止としました。</p> <p>令和3年度に向けましても、資料の2番の表にありますとおり、昨年の秋以降、実施について検討を行い、参加者の削減や時間短縮、新たな形態など、運営方法を見直したもののや、依然、実施が困難と考えられるものについては、令和3年度については実施しないとし、関係者への連絡等を進めているところです。</p> <p>今回特に、もう1枚の資料の方にありますように、小学校、中学校の連合体育大会につきましては、11月に阪神甲子園球場からご連絡をいただきまして、令和3年度につきましても引き続き東京オリンピック開催に伴い、プロ野球の日程が変更となり、西宮市の小中連体のために阪神甲子園球場がお借りできる時期というのが、最も早くて11月29日からとなるという連絡を受けました。例年は、11月の第1週から2週にかけて開催をさせていただいておりますので、例年に比べて3週間程度遅くに開催することとなるということが判明しました。そのことを小学校長会、それから中学校長会、小体連、中体連等に、関係者に連絡をしまして、11月にそれぞれ令和3年度の小中連体実施検討委員会を開催いたしました。様々な視点をもって検討いたしました。令和3年度につきましては、結論として小学校、中学校ともに実施しないと判断をいたしました。</p> <p>理由としましては、第1に気温が非常に低くなり、発熱やかぜの罹患など、健康への影響が懸念されることにあります。</p>

	<p>また、11月末から12月に新たに大規模な行事を予定として組み込むことは、特に中学3年生の3月の公立高校入試までを見通した一連の進路日程、それからその他の行事予定、保健体育の年間カリキュラムなどを教育課程の編成を見直して入れ替えていくことは、それぞれについて日程が大変厳しい状況となりまして、十分な準備期間を設けられないことなどから、児童生徒への負担となることが挙げられます。</p> <p>これを受けまして、今回の報告を受けまして、明日以降に教職員への連絡、児童生徒への連絡を行ってまいります。</p> <p>また、資料の方に戻ってまいります。</p> <p>また資料1の裏面にありますように、参考として挙げさせていただきましたが、県の体験授業につきましては、国、県の動向を注視しながら次年度の実施方法などについて、関係者間で協議しているところです。</p> <p>それから、括弧2番にありますように、各校園が実施する修学旅行、体育的行事、文化的行事につきましても、修学旅行につきましては、実施するというところで準備をはじめるとい形での話はしているところですが、全てにおきましてやはり感染状況等を見ながら、各校長会ともよく協議をした上で、あり方、学校間で余り大きな差が生まれないような形で、実施できていったらなというふうに考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
重松教育長	<p>説明は終わりました。</p> <p>本件に、ご意見、ご質問はありませんか。</p>
山本教育委員	<p>これは来年のことなのですが、今年のことです。今年、自然学校それから修学旅行は全て終わったのですか。そのあたりの状況を聞かせてください。</p>
学校教育課長	<p>まず修学旅行の方ですけれども、こちらにつきましては、実は2月に小学校2校が実施をする、宿泊として実施をする予定にしておりましたが、緊急事態宣言の関係もありまして、昨日までに連絡を取ったところ、宿泊については中止をしますと。日帰りということで県内での校外学習を考えておりますと、修学旅行にかわるものと考えておりますということでした。</p> <p>高校につきましては、3月の実施を予定しているところで、状況を見守っているところです。</p>

	<p>それから自然学校につきましては、大部分の学校が終了しておりますが、やはりこの1月から2月にかけても校外でという実施を考えている学校もあります。県内での実施である場合は、実施方法等を学校とも確認して、今後考えていきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
重松教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>ほかにはございませんか。</p>
藤原教育委員	<p>小連体なのですからけれども、今年はずっとやろうとしていたのは何日でしたか。</p> <p>といいますのは、今年というか今年度ですね、来年度最も早くて11月29日と甲子園球場の方から言われたようなのですが、今年度のもともとの打診はもう少し早かったように思ったのですけれども。</p>
重松教育長	<p>はい、学校教育課長。</p>
学校教育課長	<p>今年度につきましては、11月16日からの週ということで、予定をしておりました。</p>
藤原教育委員	<p>ということは、さらに遅くなったということですか。</p>
重松教育長	<p>そうですね。やはりオリンピックがどうなるかというのが大きいようです。</p> <p>長岡委員。</p>
長岡教育委員	<p>表のところ、理科生活科作品展以降について、全て検討中になってはいますがけれども、これは、時期的なことが少しほかの行事に比べて後ろだからということでしょうか。</p>
重松教育長	<p>はい、学校教育課長。</p>
学校教育課長	<p>理科生活科作品展以降につきましては、委員がおっしゃったように時期的な部分です。それから子供たち自身がこういった活動を行うのですけれども、一つに集めてということになると、会場が密になるという問題が一番大きくありますので、</p>

重松教育長	<p>少しそのあたり、状況を見守りながら、じっくり検討していかないといけない部分があるかと思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>ほかには、よろしいですか。</p> <p>では、なければ一般報告④を終了します。</p> <p>次に、一般報告⑤「不登校児童生徒支援について」を議題とします。</p> <p>学校保健安全課長、お願いします。</p> <p>(非公開)</p>
重松教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>では、なければ一般報告⑤を終了します。</p> <p>次に、一般報告⑥「児童・生徒の状況について」を議題とします。</p> <p>学校保健安全課長、お願いします。</p> <p>(非公開)</p>
重松教育長	<p>ほかにはございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>なければ一般報告⑥を終了します。</p> <p>以上で予定されていた議題は全て終わりました。</p> <p>ではこれもちまして、第10回教育委員会定例会を閉会します。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>